

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 26 日現在

機関番号：32617

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25590118

研究課題名(和文)信頼社会の形成に関する学際的研究

研究課題名(英文) Interdisciplinary Research on Trust and Trust-building in Societies

研究代表者

片岡 えみ (KATAOKA, Emi)

駒澤大学・文学部・教授

研究者番号：00177388

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：信頼社会とはどのような社会でいかに信頼社会を構築できるかに関する学際的研究。社会学研究の結果、一般的な他者への信頼感において高信頼国とは経済的な成長や成功よりも社会的公正さの指標が高い平等志向の政策をとる国々であった。国際関係論から、国家間における信頼醸成にとって重要な問題は、相互信頼や和解、多様性の中の共存、市民社会や若者の相互交流の育成などであるが、パワーシフトの状況の中で、ゼノフォビアや対立が顕在化している。「信頼」の社会経済史的検討を行った。グローバル経営の観点からは、中国やアジアにグローバル進出している日系企業において、相手国との信頼醸成について異文化融合の視点から検討した。

研究成果の概要(英文)：This research analyzed the characteristics of societies in which high mutual trust is maintained. Using the European Values Survey and other indexes, Kataoka found that the higher the social justice indexes, the higher the index of generalized trust, i.e., the percentage that answered "most people can be trusted." Watanabe carried out a survey of socio-economic studies on trust. From the perspective of International Relations among countries and borders, Haba found that the essential issues for confidence-building are mutual trust, reconciliation, coexistence of diversities, construction of civil societies, and mutual exchange of young students. However, in the context of power shifts, xenophobia, territorial conflicts and antagonism are emerging. From a business strategy perspective, Inoue focuses on issues related to Japanese multinational companies (MNCs) building trust with local societies in different countries, especially in China and other Southeast Asian nations.

研究分野：社会学

キーワード：信頼 ソーシャル・キャピタル 社会的公正 寛容性 外国人嫌い 境界線 グローバル化 EU

## 1. 研究開始当初の背景

これまで異なる学問領域で検討されてきた信頼および信頼社会について、学際的に検討する場は十分とはいえなかった。とくに信頼をめぐる政策や戦略、実践、文化や価値の効果について、領域横断的あるいは多角的な研究視点から評価検討する必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の5点を学際的に探究することである。

(1)「信頼社会」とはどのような社会であるかを学際的に研究する。(2)排除と包摂の相克から、いかに「信頼社会」を構築し実現できるかを検討する。(3)グローバル化した国際社会の中であって、さまざまな社会問題を克服し、オープンで共同創造的な社会へと移行する前提条件として、信頼社会をいかに構築・醸成し、実現させることが可能かを学際的に探求する。また(4)信頼社会を形成・実現するために必要な社会的、経済的、政策的、文化(価値)的条件およびストラテジーは何であるかを、明らかにする。(5)信頼や信頼社会に関わる学問研究のプラットフォームをつくり、共同して信頼社会の実現を探求することにある。

この研究を通じて、新たな社会構想に関する研究領域を、学際的に展開することに貢献したい。

## 3. 研究の方法

(1)社会学、国際政治学、歴史経済学、グローバル経営学の各研究者が、量的調査による分析ならびにインタビュー等の質的研究法、理論研究、フィールドワークなど多面的な手法で、それぞれの領域の重要課題を検討した。特徴は、各々の研究経過において、他の異なる領域の分担者と研究視点の交流を行うことで、共通する課題や問題点を明確化し、「信頼社会」という共通する視点で知見

を整理・検討していることである。

(2)具体的には、社会学分野では、マクロレベル分析とミクロレベル分析を行った。マクロではEU諸国の2次資料分析による信頼感の国家比較分析とその規定要因を社会政策、経済状況、グローバル化、公正さ指標により検討。また日本の意識調査(関東圏)のミクロデータを用いた信頼感の統計的分析を行い、信頼感の規定要因の探求を行った。国際政治の文脈では、葛藤状況にある国家間の信頼醸成の方法についての検討や外国人嫌いに関する現状分析、歴史社会学では「信頼」という概念の整理と検討、グローバル経営学では、多国籍日経企業の海外展開における信頼醸成の方法について、異文化間交流の視点から現地調査を行っている。

## 4. 研究成果

(1)代表者および分担者を中心に、信頼社会の学際的研究のプラットフォームを形成し、駒澤大学のWeb上にホームページを開設し、研究情報を発信している。これにより「信頼社会」研究の研究拠点を作成できた。

(2)信頼社会を形成する社会的・政策的・文化的条件についての社会学的観点からの実証的解明は、片岡えみによってミクロレベルとマクロレベルの2つの方向からなされた。

マクロレベルでは、EU28カ国の信頼感データ(一般的信頼)と複数の社会指標を比較分析し、人々の信頼感の高い社会と低い社会の差異について検討した。影響を与える要因としては、経済指標、グローバル化の進展指標、社会的公正さの6つの指標(貧困防止、平等な教育、労働市場へのアクセス、社会的結束と非差別、医療健康、世代間の公正)諸社会政策(公的雇用支出、積極的労働市場政策、公衆衛生支出)との

関係を検討した。その結果、EU 諸国において信頼感の高さを規定する主な要因は、社会的公正指標であることを明らかにした。経済的な指標の GDP や経済発展指標は関連性を示すものの主要な要因ではなく、6つの水準の公正さの指標において公正なレベルにある国家ほど、人々相互の信頼感が高く、また経済的にも豊かであることが見出された。また急激な政治グローバル化の進展は信頼を低下させる効果をもった。

ミクロレベルで片岡は、関東圏の無作為調査による意識調査データを分析し、一般的他者への信頼感の高い人とは、近隣住民とのソーシャル・キャピタルが強く、かつ寛容性の価値をもつことを明らかにし、寛容性と信頼感の関連性の強さを指摘した。

さらに同じデータから、親の学校教師への信頼感と学校への要望との関連からモンスターペアレント言説の誤謬を指摘した。すなわち一般的にマスコミやネット上で流布し多くの人が信じている「学校や教師への不信から親は学校に無理難題をいうモンスターペアレントとなる」言説はデータにより否定された。逆に学校や教師を信頼している親ほど学校への要望を多くだすことが明らかになった。

(2) 経済学・社会経済史的な観点から、渡辺純子は信頼社会と信頼の概念について理論的、学説史的に整理・検討した。

(3) 国際政治学の観点から、羽場久美子は拡大 EU の境界線とナショナリズムおよび民主化について検討した。

特に境界線領域における信頼醸成育成のため EU が遂行する地域協力の検証、逆にウクライナ政変介入による国家分裂という、両極のケーススタディの分析により、いかなる条件下で信頼醸成措置が良好に機能するかを分析した。

変動する国際社会においていかに信頼醸成を築くかという視点から、パワーシフト（権力移行）と領土不安、ゼノフォビア（外国人嫌い）との関係を検討し、アジアにおける信頼醸成の困難さの原因と打開方向などについても検討を継続している。

(4) グローバル経営の観点から、井上葉子は日系企業がグローバル進出に伴い進出先国で信頼を構築するための枠組みを構築し、理論モデルを試みた。具体的には中国での日系企業の提携活動について、現地調査を重ねいかに現地企業・現地コミュニティと提携して、ビジネスと社会の両面で中国社会と経済に影響を与え、信頼を培ってきたかについて、異文化の融合を中心に検討した。

(5) 本研究における「信頼社会」とは、異なる価値観や習慣、文化をもつ人々、異なる国々の間で、多様でありながらも相互理解のある、オープンで寛容な共生社会を実現するために必要な社会状態として概念化している。信頼社会の実現のためには、異質な他者への信頼が醸成されるような公正でかつ効率的な諸社会システム、諸制度、文化価値等を必要とする。国家間の信頼の醸成のみならず、個人、組織、制度、国家などの異なる水準での信頼醸成に有効な条件を明確化してきたが、研究は継続され研究プラットフォームを通じて蓄積されていく予定である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

片岡えみ、「信頼社会の「信頼社会とは何か - グローバル化と社会的公正から

みた EU 諸国の一般的信頼-」, 駒澤社会学研究, 47 巻, 2015, 29 - 51.

[http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/35047/rsk047-02-kataoka\\_j.pdf](http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/35047/rsk047-02-kataoka_j.pdf)

片岡えみ, 「信頼感とソーシャル・キャピタル、寛容性」, 駒澤大学文学部研究紀要, 2014, 137-158.

<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/33854/jbg072-05-kataoka.pdf>

片岡えみ, 「誰が教師を信頼しているのか : 「モンスター・ペアレント」言説の検証と教師への信頼」, 駒澤社会学研究, 46 号, 2014, 45-67.

<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/33803/rsk046-03-kataoka.pdf>

Kumiko Haba, “ The Power Shift: National Anxiety, Territorial Dispute, and Trans-Regional Cooperation in Asia and the US Role ”, International Relations and Diplomacy, Vol. 3, No. 3, March, 2015, 1-11.

Doi:10.17265/2328-2134/2015.03.004

羽場久美子, 「拡大 EU の境界線とナショナリズム、民主化 多様性の中の統合」, 学術の動向, 8 月号, 2014, 64-69.

渡辺純子, 「「信頼社会」の形成に関する研究 : 社会経済史の視点から」, Discussion Paper Series, Graduate School of Economics, Kyoto University, 2015 年予定.

[学会発表](計 6 件)

片岡えみ, 「信頼社会とはどのような社会

か : グローバル化と社会的公正からみた EU 諸国の一般的信頼」, 日本社会学会大 88 回大会, 一般報告, 2015 年 9 月 19 日 ~ 20 日, 早稲田大学戸山キャンパス.

片岡えみ, 「信頼感とソーシャル・キャピタル、寛容性」, 日本社会学会第 87 回大会, 一般報告「社会関係資本」部会, 2014 年 11 月 22 日(土)午前の部, 神戸大学.

片岡えみ, 「教師への信頼感と親の学校への要望 - 「モンスター・ペアレント」言説の検証と信頼と要望の関連」, 日本教育社会学会第 66 回大会, 一般報告「家族と教育」部会, 2014 年 9 月 14 日, 松山大学.

[http://ci.nii.ac.jp/els/110009892954.pdf?id=ART0010420215&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order\\_no=&ppv\\_type=0&lang\\_sw=&no=1432482736&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110009892954.pdf?id=ART0010420215&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1432482736&cp=)

Kumiko Haba, “ Power Shift, National Anxiety, & Territorial Dispute --Confidence Building under the American Rebalance Strategy ”, IPSA ( International Politics Studies Association), 20 July, 2014, Montreal, Canada.

Kumiko Haba, “Security, Sovereignty and Confidence building in the Indo-Pacific: A Perspective from Japan”, International Conference on Regional Integration in the Asia Pacific: Prospects and Challenges, 24-25 November, 2014, Delhi, India.

井上葉子, 「中国民家投資企業の M&A 戦略分析」, 国際ビジネス学会全国大会,

北海学園大学、2014年11月3日。

〔図書〕(計2件)

羽場久美子、『拡大ヨーロッパの挑戦  
グローバルパワーとしてのEU 増補  
版』中央公論新社、2014。

井上葉子、「新興市場における異文化マ  
ネジメント」、『異文化マネジメント概  
論』、同文館、2015年9月出版予定。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

「信頼社会の形成に関する学際的研究」

[http://www.komazawa-u.ac.jp/~kataoka/ka  
ken/](http://www.komazawa-u.ac.jp/~kataoka/ka<br/>ken/)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

片岡 えみ (KATAOKA Emi)

駒澤大学・文学部社会学科・教授

研究者番号：00177388

羽場 久美子 (HABA Kumiko)

青山学院大学・国際政治経済学部・教授

研究者番号：70147007

渡辺 純子 (WATANABE Junko)

京都大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：90261271

井上 葉子 (INOUE Yoko)

日本大学・商学部・准教授

研究者番号：00339673